

No. 1 「オリエンテーション」

日時：令和5年4月20日（木）13:25～15:15（5・6校時）

場所：第1体育館

講師：図書探究推進部

目的：2学年の「総合的な探究の時間」ではどのような活動を行い、どのような力を身に付けるのかを理解し、意欲・関心を持たせ主体的に取り組む態度を養う。

2学年 総合的な探究の時間 「わくわく探究タイム・応用編」

オリエンテーション

令和5年4月20日（木）

今年度（2学年）の活動

4月～5月	テーマ設定
5月～7月	情報収集・フィールドワーク 研究・中間報告
(夏休み)	追加調査・研究
8月～10月	分析・考察・普通科内発表
11月～12月	報告書作成・コンテスト準備
1月～3月	進路関係



No. 2 「山形大学工学部 情報・エレクトロニクス学科 准教授による講義」

日時：令和5年4月27日（木） 13:25～15:15（5・6校時）

場所：第1体育館

講師：山形大学 工学部 准教授 成田 克 氏

目的：五所川原工業高校卒業の先輩に、最先端技術の現状と課題を講義してもらい、課題解決に向けて、考え方のヒントとできるように各自考察する。



No. 3 「中間報告」

日時：令和5年7月20日（木） 13:25～15:15（5・6校時）

場所：各活動教室

講師：図書探究推進部／2学年担当教員

目的：これまでの情報収集・整理・分析した内容について報告する。他班から指摘された内容について「改善策等」を考えるとともに、「他班の参考になった点」や「改善策等」を踏まえて今後の計画を立てる。



令和5年度2学年「総合的な探究の時間」テーマ一覧

班	テーマ	テーマ設定理由
A	東北の祭りや青森ねぶた	はじめは青森県の観光客を増やすために青森県で行われるイベントについて調べていたが、調査する中で青森ねぶたが青森県内で一番観光客が集まることやその魅力を再確認し、さらに東北でも一番観光客が多いことを知った。そこで、東北の祭りを調べ青森ねぶたと比較することで、青森ねぶたについて考察したい。
B	青森県の特産品	青森県には魅力ある特産品がたくさんあるが、まだまだ知られていない青森県の特産品がある。そこで、青森県の特産品を調べポスターなどで発信することで青森県の良さを広めたい。
C	AKSプロジェクト (青森県観光戦略プロジェクト)	近年青森県を訪れる観光客は増加しているが、全国的にはまだ少ない状況にある。青森県の観光業を盛り上げ、経済をどう回し、観光客数を増やすためにはどうしたらよいか考えるため、このテーマを設定した。今回は五所川原のスイーツマップ作成を通じて、観光客数増加への取り組みについて探究していきたい。
D	ご当地グルメで観光客を呼び込む作戦	全国、青森県各地にはご当地グルメがあるが、五所川原市にはこれと言ったご当地グルメがない。五所川原市近辺の食材を用い、五所川原市に来ないと食べられないご当地グルメを作り、観光客を呼び込みたいと思ったため、このテーマを設定した。今回はハンバーガーを作る。
E	五所川原の街をきれいに	全校ボランティアでゴミ拾いをして、改めてゴミが町にたくさんあると気付いたので、ごみの回収と処理の現状を調べて、これから地域での路上等に捨てられているゴミを少しでも減らしていくにはどうすればいいのかを考えたい。
F	西北五地域に定住する人の数を増やす	西北五地域が今以上に発展するには、若い人の力が必要であるが、若い人が年々移住や少子化問題で減ってきている。それを防ぐためには、定住の促進や逆にこの地域に移住してもらい、活性化することが必要である。
G	青森県の祭りを紹介して観光客を呼び込む	地域の祭りをSNSやパンフレットを使って発信、紹介することによって県内、他県、そして世界中の人が祭りを見物しに来て観光客数の増加が見込めると考えた。また、観光客が祭りの特別席に座ったり、青森県のお土産を買うことによって、お金を使い、青森県全体の経済を活発にしたい。
H	若者が定住したいと思える施設	五所川原市に若者を取り込むためには大きな大会を開いたりできる施設やみんなが楽しめる施設が必要だと考えたから。また、若者が定住したいと思える施設をつくれれば若者が増え、五所川原市がよりよくなると考えた。
I	りんごのイベントで、年間を通して観光客を増やす ～りんご水鉄砲～りんご探し～	五所川原市は春の金木桜まつりと夏の立佞武多まつりが有名で多くの観光客が来るが、秋と冬には大きなイベントがなく、観光客も少ない。青森県の特産品であるりんごを使い、老若男女が楽しめる新たなイベントを開催することで、年間を通して県内外からより多くの観光客を呼び込み、地域を活性化させたい。
J	立佞武多	青森ねぶたより立佞武多の方が観光客が少ないので、立佞武多にも青森ねぶたとまた違う魅力があることを、たくさんの観光客に知ってもらうことで、年間の観光客数を確保できるし、立佞武多以外の五所川原の魅力も知ってもらえると考えた。
K	県内の特産品を使って商品を考え、つくる	お米を食べる人が減っている中で、どのようにおいしく食べていくか、消費していくかについて考えました。お米は、生きていくためのエネルギー源となるので、たくさんの人においしく食べてほしいと思っています。そのため、お米をおいしく食べるためのレシピを考え、より多くの人に広めたい。
L	青森県の食品ロスについて	近年食品ロスが大きな問題になっている。そこで、県内の状況を把握したうえで食品ロスの改善に向けて、てまえどりや自分たちで考えたフードコレクトという新たな取り組みを推進させていきたい。
M	五所川原市の飲食店の問題点と改善点	近年、地方の若者離れにより過疎化が深刻になっていることを問題視し、その原因の一つである、若者向けの飲食店が少ないという点に着目した。五所川原市内の飲食店における問題点と改善点を明らかにし、若者離れを少しでも食い止めた。
N	青森県の農産物	青森県では農業従事者が不足していることを問題とし、特に西北地区でのその原因には、人材育成体制が整っていないことがあると考えた。他の市と比べ農業従事者を対象としたイベントや研修が少ないこともあるため、イベントの実施体制を整えていくことで、農産物の活性化につながると考えている。
O	職場を増やすために	若者を定住させるためには仕事場が不可欠ということが調査で判明した。若者が五所川原から出ていかないようにする、もしくはUターンで若者が戻ってくるようにするにはどのような職場が必要かを給料・休暇・客層・労働者層・福利厚生という視点で探していきたい。
P	商店街と駅前グルメ	私たちが考える理想は駅前にシャッターが閉まっている店がなく幅広い年齢層の人が気軽に入られる店を作ることによって街を活性化させたり若者が残るきっかけをつくることだが、現状は駅前がシャッター街になっていて有効に街を使えていない若者が楽しめる場所がないので、街を活性化させるために商店街と駅前グルメについて調べていきたい。

～中間発表の様子～

